～(一財)全日私幼研究機構理事長からのご報告～

# 「主体的で対話的で深い学び」を実践する保育者の研修

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構　安家 周一

## 1）研修俯瞰図・研修ハンドブックと教員免許更新制度

平成18（2006）年、全日私幼連・全日私幼研究機構の教育研究委員会の議論を経て「保育者としての資質向上研修俯瞰図」が完成しました。その後、平成20（2008）年には研修俯瞰図に基づく研修ハンドブックを刊行し、教職員が主体的に学ぶための研修の全体像を示しました。全国で実施している研修を体系化したことで、全都道府県における研修が整理されました。幼児教育としての研修内容が整理されたことは、教員免許状更新講習においても、法令の理解にとどまらず、より現場の必要感に寄りそう講習の実施へとつながりました。処遇改善等加算Ⅱの仕組み構築にあたっても、認定こども園や幼稚園のキャリアアップ研修が時間積み上げ方式で認定されることの根拠ともなりました。

同時に研修ハンドブックへ受講スタンプとして記録する仕組みは、研修履歴の蓄積を見える化したものとして着目されました。時代の変化にあわせてアナログからデジタルへと移行が進み、既に「幼稚園ナビ」ではデジタル管理システムとして整備が進んでいます。教員免許更新制度は発展的に解消され、教育公務員においては受講した研修を蓄積し見える化をすることとしていますが、私たちはすでに「幼稚園ナビ」を通して研修の受講履歴保管システムを構築しています。

## 2）小学校は到達目標、幼児教育は方向目標

このようにして、当機構ではいち早く幼児教育という特性に合わせた研修の体系化を図ってきたことで、教員免許状更新講習を支援してきました。新しい幼稚園教育要領では、何かを教える到達目標ではなく、子どもの育ちを見取り、育ちの方向性を求める環境の構成に基づく保育計画や実践が多く語られ、昭和の時代と180度変化してきましたが、私たちにとって、教育免許状更新講習は、幼児教育の基本が学べる良い機会であったと思います。その結果は、受講者のアンケートにおいて、研修の有効性・有用性が多く寄せられたことからも分かります。研修に出向く機会の少なかった非常勤やパートの先生方にも好評でした。免許更新という義務的な要素ではありましたが、これを受講することによって、すべての教員が再度学ぶ機会が得られたことは、幼児教育の質向上の上でも大きな貢献になったと考えます。

## 3）これからの教員研修における大きな課題

幼児教育の無償化が始まり莫大な公金が幼児教育に注がれるようになった現在、保育や教育の質が評価される時代を迎えます。この課題への対応が当機構の大きな課題です。

文部科学省では「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標」を策定し、以下の基本的な考え方を上げています。

- 研修履歴を活用した資質向上に関する指導助言
- 多様な内容による資質向上
- 「現場の経験」を重視した学び
- 対面、集合型、同時双方向型オンライン、オンデマンド研修
- 研修成果の確認など

このような新時代を迎え、小学校就学前の教育の研修と評価を扱う当機構では、2022年度研究委託（文部科学省）を受託し、研修俯瞰図の拡充に加え、幼稚園ナビを高度化すべく幼児教育研修システム「ゆたかなまナビ」と改称し、オンデマンドによる研修ライブラリーの構築、システムの強化やサーバーの拡充、確実な研修の受講履歴の保管を追求しています。

やるべき課題は山積していますが、教職員が主体的で対話的な深い学びの実践者となれるように設置者・園長の皆さんと共に諸課題を乗り越えていきたいと思います。